

学校運営協議会議事録

校 名	府立槻の木高等学校
校 長 名	無津呂 弘之

開 催 日 時	令和5年2月10日(金) 14:45 ～ 16:00
開 催 場 所	本校 1F 会議室
出席者(委員)	野上朋美 会長、安田信彦 副会長、浅野良一 委員、山本冬彦 委員、 田中隆夫 委員
傍 聴 者	
協 議 資 料	校長、教頭
備 考	

議 題 等 (次 第 順)

- (1) 令和4年度 学校経営計画及び学校評価
- (2) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価(案)
- (3) 令和4年度 授業アンケート(後期)の結果
- (4) 令和4年度 学校教育自己診断
- (5) 協議

協議内容・承認事項等(意見の概要)

【無津呂校長挨拶】

- ・ 3年生の様子や共通テストの状況報告
- ・ 本校における新型コロナウイルスとインフルエンザの感染状況
- ・ 卒業式について
臨席のお願い
卒業式におけるマスクの着用について

【野上会長】

- ・ 学校の様子について

【小川教頭】

- ・ 資料の確認

(1) 【無津呂校長より】

- ・ 本年度の取り組み内容及び自己評価について

◎：目標値を上回った ○：目標値を達成した △：目標値に届かなかった

1 (1) ア 学校教育自己診断 (生徒)「カリキュラムに係る満足度」「授業満足度」「授業で自分の考えをまとめたり発表をする機会がある」について目標値は達成しているが、数値は下がっている。

生徒1人1台端末の活用について、(公開授業の様子を見ていただいたうえで)各教員が機器を使うだけでなく、思考力を高めることができている

国公立大学現役合格者数については結果が出次第報告する

面談回数について、昨年度実績を超える数値となっており、きめ細やかで、丁寧な指導ができています。

イ 一日平均学習時間について、昨年度より減少している。家庭学習の必要性やモチベーションアップのため、学年のホワイトボードを活用したり、学級通信を発行したりすることにより強化している

ウ 「槻の木 NEXT STAGE」の満足度は非常に高い

韓国の姉妹校と1月末に本校に来校しての交流ができた。金曜日は歓迎式を実施、その後韓国の交流生はバディー生の上に泊まり、休日は大阪・京都を楽しんだ。月曜日は高槻市長を訪問し、その後、本校の授業を受けてもらった。本校教員も韓国の交流生に少しでも授業の内容を理解してもらおうと、韓国語に翻訳した教材や英語での授業など自主的に工夫をしてくれた。

(2) 学校教育自己診断 (教職員)「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている」について数値は達成されていないが、昨日(2月9日)に講師を招いて職員人権研修を行った自らの経験を踏まえた講演内容であった。今回の研修を通して校内で議論を活発化させたい

(3)「学校行事の肯定的回答」について、新型コロナウイルス感染症の影響でできていなかったことができるようになったので、肯定的な回答となっている。

2 (2) ア 研究授業について、前・後期とも8人程度の教員が実施。職員会議で授業での感想や教科内でのフィードバックの結果を側隠会議で報告している。今後も継続していきたい。本日の公開授業も60名程の保護者が見学に来てくれた。

イ 学校教育自己診断 (生徒)「生徒指導は納得できる」について、生徒の背景も踏まえた指導となるよう教職員で改善していきたい。

3 (2) 学校説明会について、年に8回行った。学校としてはこれまで培ってきたものを大切にしていき、今後も勉強・生活規律をしっかり指導していく。学校行事も他校に負けていないと感じている。

4 (2) 職員の同僚性について、学校教育自己診断 (教職員)で、「教職員間の相互理解について肯定的回答」を8割にしたい。教員にゆとりがない。来年度から一斉退庁日の取扱いが厳しくなるが、業務が減っているわけではないので、しわ寄せがくる。働き方改革を行うためには、人とお金を配置してもらわないと解決しないと考えている。

<p>(2) 府教委に本校の「スクール・ミッション」を提出し、指示を待っている状況であるが、現時点で来年度の学校経営計画は大きく変更するつもりはない。</p>
<p>(3) 授業アンケート（後期）の結果について報告 教員が授業の開始に本時の目標を示すことで、生徒側も目的意識が高まっているという結果が出ている。</p>
<p>(4) 令和4年度学校教育自己診断の結果について 今年度から Google フォームを使っての実施となった。回答者が特定されない形で実施したことや周知に課題があり保護者からの回収率が大きく減ってしまった。次年度に向けて回収率をどのように上げていくか検討していく必要がある。</p> <p>【生徒・保護者】</p> <p>4 進路指導について 「38 自習室をよく利用している」の項目が下がっている。生徒への案内や環境整備について取り組んでいく。</p> <p>7 行事・部活動について 行事等を行うことができているため、数値が改善している</p> <p>8 学校からの情報公開・発信などについて 「42 学校のHPをよくみる」 生徒は Chromebook のクラスルームの活用により、学校のHPを見る機会は減っているようであるが、保護者は部活動のブログや校長ブログを頻繁に更新しているため閲覧する保護者は増えている。</p> <p>【教職員】</p> <p>11 学校運営 校内の研修について充実した方がよいと考えている教職員が多い。次年度、研修内容の充実と研修に参加しやすい環境を整えていく必要がある。</p> <p>18 施設・環境・周辺整備等 施設の老朽化を心配する声が上がっている。教育庁にお願いしていく。</p>
<p>(5) 【山本委員】 志願者数について 落ち着いて状況を見守っていくしかない。変な噂や風潮が広がらないように情報を集めていく必要がある 教員の仕事量について、気になっている。課題が多くある中で解決していけていない。どの職種でも残業はあるが、教職員は残業代が出ない。引き続き声をあげていくべきである 授業アンケートについて 芸術系や・保健体育の評価が高くなっている。何か理由があるか分析してほしいのと公開授業で見せてもらえると他教科と比較しやすい。 同じ校種でも授業のやり方は異なるので互いに交流してほしい。</p> <p>【安田 副会長】 公立はもう一度頑張らないといけない。(高槻第一中学校) 部活動に関しても、民間のクラブチームに行き活躍し私立の高校へ行く生徒がいる。中学校で部活動を頑張っている生徒は減っている</p>

き格差が広がっている。

公立は格差をなくしていき、公立の魅力を高めていくべきである。小中高の連携を進めていくべき。公立の強みは地域の協力を得やすいところにある。卒業生も含めて地域に託していく発信が必要となってくる。

教員の指導力の向上。教員の移動もあるため公立のほうが私立よりも教員の力をつけやすい。小中高の教員が授業を見せ合う。そして、生徒交流を行っていったらいい。

授業を見に行くことによって、上手な授業を行う教員の紹介や教授方法に悩んでいる教員に対しての助言や異校種の授業を見ることで大きな刺激を受ける。

【田中委員】

「槻の木 NEXT STAGE」で地域連携ができていない。地元との協力をしていきたい。地域の小中学校の生徒に能の体験を行った。能面など触ったことのない子どもたちが体験活動を通して礼儀作法や伝統文化に直接触れることができる。そういったものが地域に埋もれているのもっと活用して行ってほしい。

時代に合わせて、子どもをどういう大人にしていくか。家庭環境を良くしていく必要性を説いていた。すべての教育はこのことにつながっていると思う。

国際交流による英語力の向上の成果はどうか。

校長より回答

今の高校生は英語を使ってコミュニケーションをとれている。

今年はタイ（オンラインでの交流）・韓国とすべて英語による交流を行っている。相手校の英語力が高いことと、ネイティブよりも聞き取りやすい英語を使っているため聞き取りやすい。一つのステップとして、アジアとの交流により第2外国語として丁寧に対応してくれる。本校生徒ももっと発信していきたいと自信がついたという声を聴いている。

【野上会長】

自宅学習時間の減少について、土曜講習を受講している生徒が増加しているために家庭学習の時間が減っているのではないか。

先生方の負担が気になる。

単位制の魅力を出して行ってほしい。他の普通科の学校との違いを出して行ってほしい。

公開授業を見学して

小人数制の授業を増やしていくことで、生徒の集中力が高まっていくように感じた

【岡田教諭】

普段から教員同士で話をするようにしている。教科に関する番組をそれぞれが観て、協議を行っている。今後、若い教員をどのように巻き込んでいくか。

教科で集まることができていない。経験の少ない教員に対して日々の学び（雑談の中）で力をつけて行ってほしい。OJTはしつらえてやるものではないと思う。普段の教員同士のコミュニケーションの中から生まれてくるものだと思う。